



## 『世界のすてきな先生と教え子たち』

(井上直也)

世界の様々な国の学校を訪ね、先生と子供たちの姿を写真と言葉で紹介する絵本です。写真を通して、それぞれの地域で大切にされている教育の形や、子どもたちの生き生きとした表情を見ることができます。文化や習慣の違いを学ぶことができるため、国際理解の第一歩としておすすめです。

本の場所→図書館 | F学校図書館コーナー

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『学力と階層』

(刈谷剛彦)

子どもの学力が家庭の経済状況や文化的背景と深く結びついていることを、調査データをもとに明らかにした本です。学力の差は努力だけでなく環境によっても生まれることを示し、教育の公平性や支援の在り方について考える視点を与えてくれます。教育格差を理解する入門書として最適です。

本の場所→図書館2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『学力格差の拡大メカニズム』

## (数実浩介)

マタイ効果の視点から、家庭背景の違いによる小さな学力差が、学習意欲や自尊感情との双方向因果を通じて次第に自己増幅し、大きな学力格差へと成長する過程を実証的に明らかにした本です。さらに、公教育現場での実践事例を通じて、格差拡大を抑える方策や平等観の再検討についても考察しています。

本の場所→図書館 2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『弱者の居場所がない社会』

(阿部彩)

経済的困窮が「つながり」「役割」「居場所」の喪失を通じて弱者を社会から排除するメカニズムを明らかにし、「社会的包摂」の必要性を豊富な事例とデータで説く入門書です。学びや支援だけでなく、人間らしい尊厳とつながりを保障する視点を提起しています。社会政策や福祉、教育の視座を広げる一冊としておすすめです。

本の場所→図書館 2F新書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『子供の貧困と公教育』

(中村文夫)

学校現場の実態と財政視点から、貧困が教育に与える影響と制度の課題を具体的に分析し、公教育の再生と無償化の展望を提案する本です。公教育の公平性や政策対応を考える上で重要な一冊です。

本の場所→図書館 2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『子どものスポーツ格差』

(清水紀宏)

家庭の経済力や文化資本によって、子どもの運動機会や体力に不平等が生まれ、それが学年の進行とともに拡大するメカニズムを詳細な調査データで示した本です。子どもの健康と公平な成長のために重要な視点を提供する一冊です。

本の場所→図書館2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『「ヤングケアラーとは誰か」』 (村上靖彦)

病気や障害を持つ家族のケアを担う子どもたちの実態を、当事者の声を通じて詳細に描いています。精神的・身体的な負担や、家族内外での孤立、学校生活への影響など、多面的な課題を明らかにし、社会や支援者の理解不足が彼らの孤立を深めている現状を浮き彫りにしています。

本の場所→図書館 2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



## 『ヤングでは終わらないヤングケアラー』

(中村海斗 木村諭)

障がいのあるきょうだいの世話を日常的に担う「きょうだいヤングケアラー」に注目し、当事者の声とライフステージ別の心理、行動の変化を丹念に追った本です。精神的・身体的ケアの負担、学校や家庭での葛藤、そして社会的孤立を浮き彫りにし、支援のあり方を提示しています。

本の場所→図書館 2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『「一人も見捨てへん」教育』 (志水宏吉)

茨木市全体の教育改善に取り組んだ実践記録と分析を通じて、「ゆめ力」「つながり力」「自分力」「学び力」という4つの観点から、すべての児童生徒の学力を引き上げる教育モデルを提示しています。教育委員会と学校が一体となって進めた、学力向上と公平性を両立させるための「力ある教育」の実践手法を提示している点が特長です。

本場所→図書館2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『世界がぐっと近くなる SDGs とボクらをつなぐ本』 (池上彰)

SDGsの17のテーマを、小学生でもしっかり理解できるように、漫画と図解でわかりやすく解説した一冊です。身近な日常のシーンから始まり、「貧困」「教育」「気候変動」などの課題が見えてくる工夫が凝らされています。掲げられた目標の設定の背景と私たちにできることを示し、SDGsを自分事として考えられる構成が特徴です。

本の場所→図書館 | F学校図書館コーナー

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『身近なことから世界と 私を考える授業』 (開発教育研究会)

SDGsの17の目標をテーマに、身近な事例を用い、生徒が自ら考え、話し合い、行動する力を育む参加型教材集です。特定の地域や社会問題をただ学ぶのではなく、「自分ごと」として捉える問いかけやワークシートが豊富に収録されており、問題の背景理解から未来のアクションプラン作成までをサポートする構成となっています。

本場所→図書館 2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



## 『SDGsの視点に立った授業づくり』

(廣島憲一郎)

社会科や総合的な学習の時間でSDGsをどのように取り扱い、子どもたちの主体的な学びにつなげていくかを具体的な実践例とともに紹介した教育書です。理論と実践の橋渡しを行い、授業づくりに悩む人にとって、すぐに活用できるヒントが詰まった一冊です。

本場所→図書館 2F図書

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『授業づくりネットワーク ：授業づくりの情報誌』48号 (日本書籍)

本号では全国の幼児教育、小学校、特別支援校などの校種の実践記録が掲載され、実際の教室で起きる多様性とその対応の具体が豊富に描かれています。授業づくりに関心のある人にとって、理論と実践をつなぎ、「揃わない」現場での授業づくりを考える上で、示唆に富む一冊です。

本の場所→図書館逐次刊行物（3F日本語雑誌）

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】



# 『体育科教育』73巻1号

## (日本体育指導者連盟)

現代の教育課題に応じた体育の授業づくりを特集する実践・研究誌です。SDGsや障害理解、特別支援との連携などを視野に入れた授業実践や、体育科の学習内容の再構築に関する論考が掲載され、体育教育のあり方を理論と実践の両面から問い直しています。多くの人にとって、より深い学びと気づきを与えてくれる一冊です。

本 の 場 所 → 図 書 館 逐 次 刊 行 物 ( 3 F 日 本 語 雑 誌 )

【推薦：工藤宥良(A類保健体育専修)】

1 国に関する本 288.9/YON  
12021001915



# 『国旗と世界のストーリー』

(米村典紘 著)

特定の国旗を知っていても、200近くもある国の名前や場所をよく知らない人が多いのではないのでしょうか？

この本では、国旗やその背景、さらに、類似国旗の比較、図形や色、動植物による仕分けなど、国旗の様々な情報が分かりやすく紹介されています。

「国際性」「多様性」「世界の事情」を面白く学ぶことができる一冊です！

本の場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

11 国に関する本 748/TAN  
10303965



# 『田沼武能写真集 トットちゃんとおフガニスタンの 子どもたち』 (田沼武能 著)

ユニセフの親善大使であるトットちゃんこと黒柳徹子さんがアフガニスタンを訪ねたときの人々の様子を伝える田沼武能の写真集。

2001年の同時多発テロ事件以前と、翌年にアフガニスタンを訪問したときの写真が多く載せられており、特に子どもの表情が印象的。

内戦・干ばつで荒れ果てた土地にひしめく難民。一方で、悲惨な状況の中でも生き生きとした表情をした子どもたちが鮮明に写されている。

本の場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

15 国に関する本 302.35/LEV  
120190013160



# 『地図で見るフランス・ ハンドブック 現代編』

(ジャック・レヴィ 著)

「地図で見るシリーズ」の1冊。

人口、投票率、居住、交通、教育、生活水準、職業、歴史、環境問題、世界との関係など…

様々な問題を地図で示しながら紐解いていく本です。

70を超える地図があり、視覚的に国について理解するのにおすすめの本です！

本の場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

22 国に関する本 606.9/SAN  
12015005304



# 『万国博覧会と人間の歴史』

(佐野真由子 著)

現在開催されている大阪・関西万博が話題になっていますが、みなさんは1940年に日本万博が月島埋立地で開催予定だったという「幻の博覧都市計画」を知っていますか？

この本は、「万博から人間の歴史を見る」をコンセプトに、万博をつくり、運営する立場からの発言を含めながら、万博と人間の諸関係を様々な立場の専門家が分析しています。

本の場合→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

36 問題の把握 370.4/TAK  
12022000768



# 『やりすぎ教育： 商品化する子どもたち』

(武田信子 著)

eポートフォリオや評価など、人間に点数がつけられている…。中学受験が増加し、教育熱心な親が増え、成功を目指す教育がますます目指されるようになっていく…。

大人たちの過度な期待と押し付けで自身を失っている子どもたち。教育熱心と教育虐待のボーダーラインとは？

現代の教育の問題点について考え、よりよい教育について考えるきっかけを与えてくれる一冊。

本場所→図書館2F新書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

39 問題の把握 372/AKA  
12023001376



# 『SDG s 時代にみる教育の 普遍化と格差：各国の事例 と国際比較から読み解く』

(澤村信英 ほか著)

アフリカやアジアの諸地域における教育格差の現状、教育格差をめぐる国際比較、コロナ禍において生じた比較的最近の格差や教育における課題などを扱った本。

SDG s ゴール4達成に向けて「多様な社会、様々な教育の発展段階において、教育と格差をめぐるいかなる課題があるのか」をグローバルな視点で明らかにしています。

本の場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】



# 『切抜き速報.教育版 1183号』

(二ホン・ミック 著)

全国85紙の新聞記事から教育の「今」を読み解く本。普段新聞を読まない人でも、この本を読めば教育に関する様々な新聞記事にふれることができます。

巻末特集 学習指導に求めるもの～学びの未来とは～では、1人1台端末でゲームする子どもの記事、ネットのルール作りに関する記事、小学校のチーム担任制の記事、自分のペースで子ども自身が時間割を作成する学校実践の記事など、GIGAスクール構想が進む中で、子どもたちの学びの未来を考える記事が多く掲載されています。

本場所→図書館逐次刊行物  
(3F日本語雑誌)

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

49 問題の把握 378/KAN  
12022002255L



# 『発達障害「できないこと」 には理由がある！』

(かなしろにゃんこ。 著)

漫画家、かなしろにゃんこ。さんの息子リュウ太くんには発達障害がある。20代になったリュウ太くんが小学校の頃を思い出し、「できないこと」をありのまま語っている漫画。

発達障害のあるリュウ太くんが感じたこと、考えたことがありのままに表現されており、さらに専門家の先生の解説や、支援・工夫のヒントも書かれており、これから様々な子どもと関わる皆さんに、ぜひ読んで、発達障害とその支援方法について考えてもらいたい。

本の場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

73 課題へのアプローチ  
375.199/ASA 12023004017K



# 『教育DXで「未来の教室」をつくらう GIGAスクール構想で「学校」は生まれ変われるのか』 (浅野大介 著)

「誰一人置き去りにしない」教育システムの全国の先進的な事例がたくさん紹介されている本。

1人1台端末、学びの自律化・個別最適化、探究化・STEAM化、サード・プレイスなど、様々な観点から「未来の教室」の在り方を考察している。

要所にQRコードがあり、この本から様々な情報にアクセスすることも可能。

これから教育に携わるみなさんに、これからの教育について考えるきっかけを与えてくれる本。

本の場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】

76 課題へのアプローチ  
375.3/KAW 12024002286R



『子どもへの感性が磨かれる  
社会科の学び  
共感し合えるが学級をつくり、  
どの子どもも輝く授業をつくる！』

(河村秀樹 著)

「～のはずなのに、なぜ？」という問いが生まれるとき、子どもの追究意欲があふれ出す！

子どもの感性が磨かれる社会科授業づくりの実践や、認識とのズレを生み出すノウハウが多数紹介されている本。

子どもが毎日学校で楽しく過ごすために、心温かい学級の中で、知的好奇心が掻き立てられる授業を通して主体的に学ぶことができることが重要である、ということ改めて感じさせられる一冊です。

本のある場所→図書館2F図書

【推薦：上條奈央(大学院教育協働研究プログラム1年)】